

令和3年度「地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業（オーガナイザー組織の持続可能な事業計画策定）」

# 小樽築港周辺地区ウェルネス事業創出計画

2022.03.31



株式会社  
北海道二十一世紀総合研究所

# 目次

## I. 本計画の概要 (P3)

1. 計画の背景・目的
2. 計画期間
3. 計画の策定体制

## II. 地域・社会課題の整理 (P9)

1. 小樽市における地域・社会課題についての整理
2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯

## III. ウェルネス事業創出計画 (P20)

1. 事業計画を推進するウェルネスの概念「未病院構想」
2. ウェルネス事業創出計画（全体像）
3. リビング・ラボ機能の充実
4. 創出するウェルネス事業（案）
- 5.リビング・ラボ活動の推進体制（MAP'S+Oの体制）
6. 実施スケジュール
- 7.リビング・ラボ活動を継続するための収支モデル

## IV. 資料編 (P59)

# I. 本計画の概要

1. 計画の背景・目的
2. 計画期間
3. 計画の策定体制

# 1. 計画の背景・目的（全体像）

## 【1】 目的

- 本計画は、弊社が地域内外の多様な関係者との連携により、小樽築港地区をフィールドとしたウェルネス事業の創出を通じて小樽市が抱える地域・社会課題を持続的に解決するための計画です。（計画期間は3年間）

## 【2】 基本的な考え方

- ウェルネスの概念は幅広く、一口にウェルネス事業といっても、多種多様となります。
- 本計画では、弊社及び連携する関係者の「強み」を生かすことができるウェルネス事業創出を優先的に実施します。
- 様々な主体が、いきいきと活発に活動している状態を作ることが、対外的な「ウェルネスのまちづくり」のブランドイメージの醸成に繋がり、中長期的な地域活性化に繋がるという考えをしています。
- このため、ウェルネス事業の主体は、地域内外の企業・団体・個人（住民）を対象とします。事業の範囲はビジネスベース（収益事業）から、まちづくり活動（非収益事業）まで幅広く対象とします。

# 1. 計画の背景・目的

## 【3】 背景

### ① ウェルネスタウン構築に関する協定

- 2020年7月に株式会社小樽ベイシティ開発と北海道済生会は、ウェルネスタウン構築に関する協定書を締結しました。
- 第2期小樽市総合戦略などを踏まえて、「ウェルネス」の概念に基づいたまちづくりを推進する内容となっています。

### ② ウェルネス×地域・社会課題解決

- 小樽市の地域・社会課題として、「人口減少」「健康寿命延伸」が挙げられます。
- 人口減少は、出生数の減少（自然減）、人口の流出（社会減）によるものですが、最終的にはそのまちでの「暮らしやすさ」「働きやすさ」をいかに創出し、人材を定着させ呼び込む戦略が重要となります。
- また、「暮らしやすさ」にも関わりますが、「健康でいられること」も重要な要素です。
- つまり、健康でいきいきと安心して暮らし続けられる環境をいかにつくることができるかが課題であり、「ウェルネス」はその課題解決に向けたキーワードとなると考えています。
- そして、「ウェルネス」は、地域住民（個人）から企業・団体まで、性別・年代等を問わず、多様な主体を巻き込むことができる概念として捉えています。

# 1. 計画の背景・目的

## ③ 小樽市への貢献・連携

- 本計画の推進にあたり、小樽市との連携を密に図りながら、小樽築港地区において、ウェルネスのまちづくりを進め、移住や人口流出防止の受け皿となることを目指します。
- 小樽築港地区＝ウェルネス事業の社会実験フィールドとなり、市における事業効果の高い施策施策検討に活用いただきます。

## 2. 計画期間

- 本計画期間は、2022年度～2024年度の3年間とします。
- 試行期、展開期、確立期とし、小樽市の施策との連携を図りながら計画を推進します。

試行期【2022】

展開期【2023】

確立【2024】

ウェルネス事業の企画、外部からの募集・選定（3年間）

リビングラボ（事業創出スキーム）の確立

選定案件について、様々なアプローチを試行し、創出スキームを体系化

体系化した創出スキームをもとにサポートを展開

確立した創出スキームをもとにサポートを展開

計画に掲載した事業等の実証

事業化に向けた実証や継続サポート

事業化

地域内外のネットワークを拡充（3年間継続）

### 3. 計画の策定体制

- 小樽築港地区ウェルネス事業創出推進委員会を設置し、計画内容を検討いただきました。
- 計画策定プロセスにおいて、小樽築港地区でのウェルネス事業に関心がある事業者・団体・個人のネットワーク化、学生と連携した各種調査、セミナー、ワークショップ等を開催しました。

#### 第1回推進委員会

【日時】 2021年9月30日（木）  
15：00～

【会場】 小樽ベイシティ開発

【内容】 本計画策定について  
講演会  
今後のスケジュール

#### 第2回推進委員会

【日時】 2022年1月24日（月）  
16：00～

【方法】 オンライン開催

【内容】 推進委員の追加について  
計画書素案について  
今後のスケジュール

#### 第3回推進委員会

【日時】 3月24日（木）10：00～

【内容】 計画書案について  
今後のスケジュール

- ①ウェルネス事業に関心がある事業者・団体・個人のネットワーク化に向けたプレスリリース
- ②地域課題の抽出やウェルネス事業創出に係る意見交換（小樽市）
- ③リビング・ラボに関する事例調査
- ④学生の協力によるウェルネスのまちづくりに関する調査（小樽商大大津ゼミ、猪口ゼミ）
- ⑤ウェルネスのまちづくりに関するセミナー（ヘルスケア・ビジネスナレッジ西根氏）
- ⑥ウェルネス事業創出に向けたイベント（トークセッション、ワークショップ）

## II. 地域・社会課題の整理

1. 小樽市における地域・社会課題についての整理
2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯

# 1. 小樽市における地域・社会課題についての整理

- ウェルネスをキーワードとすることで小樽市の「人口減少・少子高齢化への対応」に貢献する。
- ウェルネス事業を多面的に創出→誰もが「このまちに暮らし続けたい」→「人口流出抑制、新たな人流」の循環を作る。



出典：第7次小樽市総合計画（2019～2028）

# 1. 小樽市における地域・社会課題についての整理

## 【1】市民の健康寿命延伸をいかに図るか

- 小樽市においては人口減少・高齢化＝労働人口の減少による地域全体の衰退が問題となっています。これに伴い小樽市の財政も厳しい状況にあります。
- 労働人口の減少をある程度受け入れつつ、地域の活力を維持するために、いかに市民の健康寿命延伸を図るかが課題です。
- とりわけ、人生100年時代を向かえ、就労期間の長期化が避けられない中で、一人ひとりが健康を維持し、できるだけ長く地域貢献できる社会づくりが必要となります。こうした社会の実現により、中長期的には医療・介護給付費の抑制を通じた地方財政の維持をいかに図るかが課題です。

### ■関連データ

(以下、「人口ビジョン令和2年度改訂版」による)

- 人口は12万人弱。10年で20,264人が減少
- 高齢者数は、令和22(2040)年に生産年齢人口を上回り、令和27(2045)年には高齢化率は52.1%となる見込み

(以下、小樽市特定健康診査・特定保健指導第3期実施計画による)

- 一人当たり医療費(一般・退職の合計)は48万円弱で増加傾向にあり全道平均、全国平均を上回る。

# 1. 小樽市における地域・社会課題についての整理

## 【2】 ウェルネスのまちづくりで新しい人の流れを創出できるか

- 人生100年時代の到来とともに、前述した働き方も含めて、国民のライフスタイルニーズ＝「ウェルネス」の価値観も大きく変容します。
- 「ウェルネス」に着目し、「個人個人のウェルネスを実現できるまちづくり」を推進し、小樽市に「ウェルネス」というブランド価値を創出することで、小樽市の基幹産業である観光産業の活性化、移住人口、関係人口の増加をいかに実現させるかが課題です。

### ■ 関連データ

(以下、「人口ビジョン令和2年度改訂版」による)

- ✓ 転出超過の約8割は生産年齢人口（15～64歳）であり、うち20～29歳の年齢層が約5割を占める
- ✓ 昼夜間人口比率は100%を超えており、平成27（2015）年には2,369人の流入超過となっている
- ✓ 合計特殊出生率は、平成22（2010）年から平成24（2012）年まで減少したが、平成28（2016）年に一度減少したものの回復傾向となっている。しかし、全国より低い北海道の水準までにも達していない。

## 2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯について

### 【1】小樽築港エリアの位置



#### 【同エリアまでの交通アクセス】

- JR札幌駅～JR小樽築港駅間(ウイングベイ小樽直結)  
快速電車(JR函館本線下り)で25分
- JR小樽駅～JR小樽築港駅間(ウイングベイ小樽直結)  
快速電車(JR函館本線下り)で6分
- 車 札幌～小樽間 ■ 高速道路使用で30分  
札幌～小樽間 ■ 一般道路使用で45分

出典 (地図画像) : Googleマップ

## 2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯について

### 【2】小樽築港地区が属する「南小樽地域」の地域づくりの方針（出典：第2次小樽市都市計画マスタープラン）

#### ■土地利用

- 天神などの低層住宅ゾーンは、周辺の自然と調和した低層建物を主体とするゆとりと落ち着きのある住宅地として、良好な住環境の維持・創出を図ります。
- JR 小樽築港駅周辺地区の中高層住宅ゾーンは、快適なオープンスペースと中高層建物を主体とした住宅地として良好な住環境の維持・創出を図ります。
- 奥沢、若竹町、天神などの幹線道路背後に位置する一般住宅ゾーンは、住宅や店舗などの生活利便施設などが適度に混在し、身近でサービスが受けられる利便性の高い住宅地の維持・創出を図ります。
- 住ノ江、奥沢、若竹町などの住商複合ゾーンは、周辺住宅地の生活サービスを担う身近な生活利便施設や住宅などが複合する拠点性のある商業地の形成を図ります。
- 国道5号や国道393号などの沿道サービスゾーンは、交通状況や近隣の市街地環境に配慮しつつ、沿道におけるサービス施設の立地を誘導し、周辺の利便性を高めます。
- JR 小樽築港駅周辺地区の観光・レクリエーション交流ゾーンは、親水空間と調和した交流・生活サービス機能などが充実した魅力ある空間の維持・創出を基本としつつ、地区計画区域内の土地利用転換が一定程度進んだ段階で、良好な市街地環境の保全に配慮しながら、その土地利用にふさわしい地域地区や地区計画等の見直しを検討します。
- 住吉などの観光・歴史交流ゾーンは、歴史的建造物などと商業機能が調和した魅力ある空間を形成するとともに、更なるにぎわいの創出のため、観光客の回遊性を高めます。
- 小樽港臨港地区の工業流通ゾーンは、港湾機能を生かし、効率的な工業・流通活動を支える土地利用を基本としつつ、隣接する交流空間と連携した複合的な土地利用を検討します。
- 奥沢、天神、真栄などの住工共生ゾーンは、都市型工業と住宅が共存する職住近接型の地区として、都市型工業の集積や既存施設機能の更新においては、周辺環境との調和に努めます。
- 北海道新幹線新小樽（仮称）駅周辺地区は、本市の新たな玄関口にふさわしい土地利用に向けた規制・誘導方策を検討します。

## 2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯について

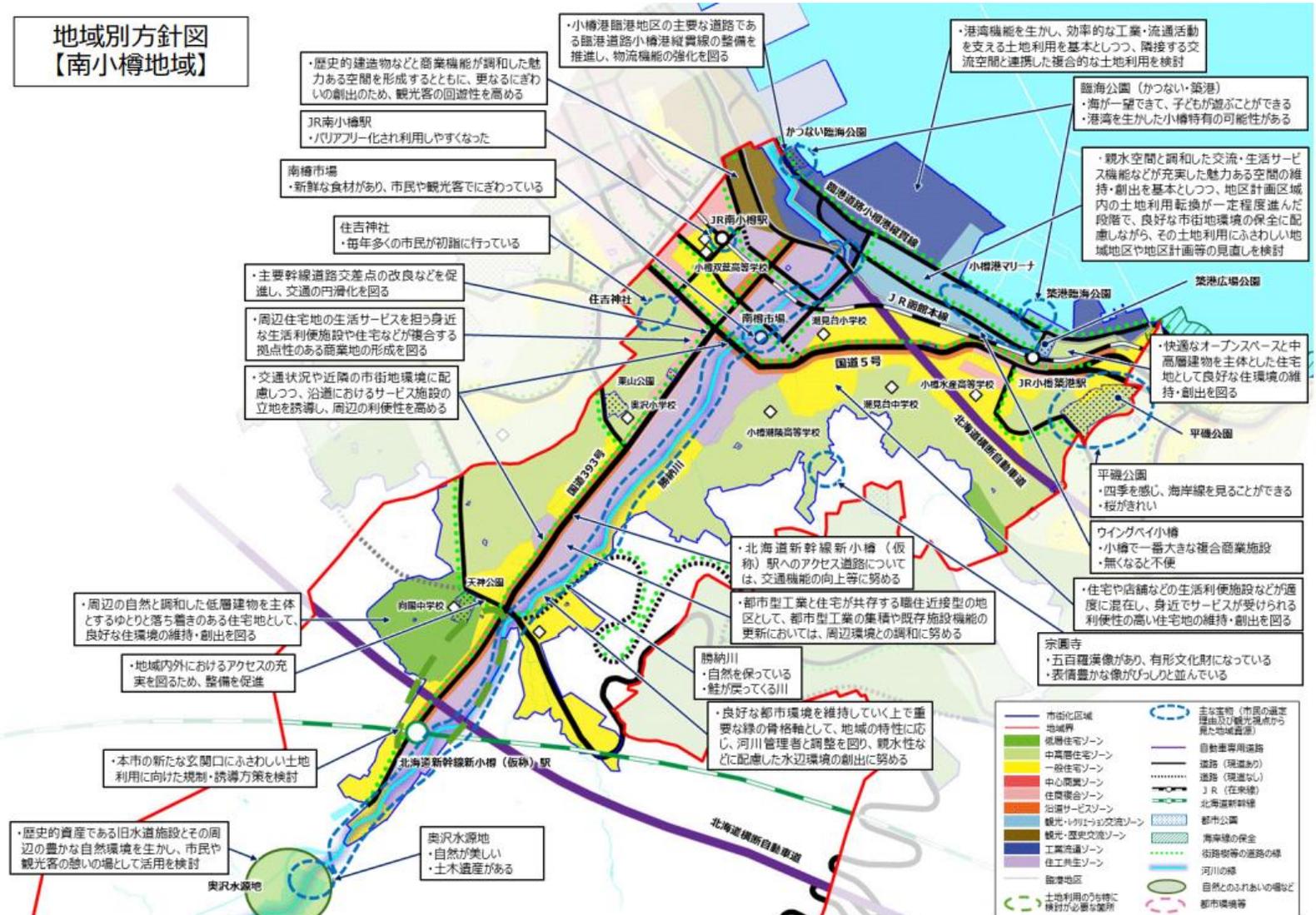
### 【2】小樽築港地区が属する「南小樽地域」の地域づくりの方針（出典：第2次小樽市都市計画マスタープラン）

#### ■都市環境等

- 地域内外におけるアクセスの充実を図るため、塩谷・新光間を結ぶ道道小樽環状線の整備を促進します。
- 北海道新幹線新小樽（仮称）駅へのアクセス道路については、国道 393 号など必要に応じ、交通機能の向上等に努めます。
- 小樽港臨港地区の主要な道路である臨港道路小樽港縦貫線の整備を推進し、物流機能の強化を図ります。
- 主要幹線道路交差点の改良などを促進し、交通の円滑化を図ります。
- 地域内の長期未整備の都市計画道路については、その必要性等を総合的に点検・検証し、計画の見直しを行い、必要な道路の整備について検討します。
- 奥沢水源地周辺は、歴史的資産である旧水道施設とその周辺の豊かな自然環境を生かし、市民や観光客の憩いの場として活用を検討します。
- 勝納川は、良好な都市環境を維持していく上で重要な緑の骨格軸として、地域の特性に応じ、河川管理者と調整を図り、親水性などに配慮した水辺環境の創出に努めます。
- 道路や公園など既存都市基盤施設の適切な維持・管理に努めるなど、安全で快適な市民生活の確保を図ります。

## 2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯について

### 【2】小樽築港地区が属する「南小樽地域」の地域づくりの方針（出典：第2次小樽市都市計画マスタープラン）



## 2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯について

### 【3】小樽築港地区が属する「中部地区」の発展方向（出典：第2期小樽市総合戦略）

#### 課題

- ▷ 若年層の人口流出を抑制することが課題
- ▷ 札幌市手稲区・西区への転出を抑制することが課題
- ▷ 札幌市とは異なる生活環境の良さをアピールできるかが課題
- ▷ 市外からの通勤・通学者に、どう小樽市に住んでいただくかが課題
- ▷ 合計特殊出生率<sup>\*1</sup>の改善が課題
- ▷ 希望職種や労働条件などをいかに求職者に合致させるかが課題

#### 施策の方向性

- ▶ 強みを活かした産業振興による安定した雇用づくり
- ▶ 若者の地元定着の仕組みづくり
- ▶ 美しいまちなみと自然を活かした交流の場づくり
- ▶ 子育て世代が安心して働くことのできる環境づくり
- ▶ 子育てしやすい環境づくり
- ▶ 教育環境の向上と次世代のひとづくり
- ▶ 健康で生きがいをもって暮らせる環境づくり
- ▶ 安心して生活できる医療・介護のネットワークづくり
- ▶ 交通アクセスの改善等による住みよいまちづくり
- ▶ 近隣市町村の強みを活かした元気な圏域づくり

#### 2 中部地区

##### 地区の概況

本市の中央部に位置する地区です。

重要港湾である小樽港をはじめ、小樽、南小樽、小樽築港の3つの主要駅、札幌自動車道の小樽 IC があり、北海道経済の中心を担った明治後期から昭和初期の建造物が多く見られ、旧銀行建築や石造倉庫など歴史的建造物が特有の景観を形成しています。

国内外から数多くの観光客が訪れる、本市の第3次産業の中心地区で、市街地は小樽港周辺から山側にせり上がるように形成されています。

##### 地区の発展方向

日本遺産<sup>\*1</sup>認定と連動したまちなみの保全や、歴史的建造物・空き家・空き店舗など建築ストックの有効活用を促し、観光振興や移住・定住の促進に努めるとともに、観光・商業・物流の拠点として小樽駅周辺や小樽港などの魅力向上を図り、活気ある地域を目指します。

また、市内中心部という利便性の高さを活かし、まちなかでの雇用機会を創出するほか、住環境の充実を図り、子育て世代などのまちなか居住を促すことで、人口流出を抑制し、にぎわいの創出に努めます。

北海道新幹線新小樽（仮称）駅周辺については、小樽の新たな玄関口として、新幹線整備効果を地域全体に活かすまちづくりを進めます。

## 2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯について

### 【4】小樽築港駅周辺再開発に係る小樽市の取組など

- 小樽市は平成5年に市が抱えている定住人口減少、雇用場所の不足、買い回り品の市外流出等の課題解決を目的として「小樽築港駅周辺地区整備基本計画」を策定しました。
- その後、小樽市では計画の実現に向けた各種インフラを整備するとともに、同計画に基づく街づくりの具現化に向けて、(株)小樽ベイシティ開発が平成11年に商業・アミューズメント施設（現 ウィングベイ小樽）及びホテル（現 グランドパーク小樽）の運営を開始しました。
- 小樽市はこの施設建設にあたり都市計画法に基づく「再開発地区計画」を定めて、用途地域（工業地域）の高度利用を可能とし、マンション建設用地（中高層住宅地区）の臨海地区を解除し、再開発事業区域は港湾法上の分区指定を無指定区にしました。
- しかし、バブル崩壊後の開業であったことや札幌市西地区や札幌駅前の大型商業施設の影響を受けて、小樽ベイシティ開発は親会社との連鎖破綻となり、その後、民事再生計画を策定して新たな会社となって事業運営を継続し、再度の民事再生に取り組み現在に至っています。

## 2. 小樽築港エリアでのこれまでの活動経緯について

### 【5】本事業活用に至るまでの経緯

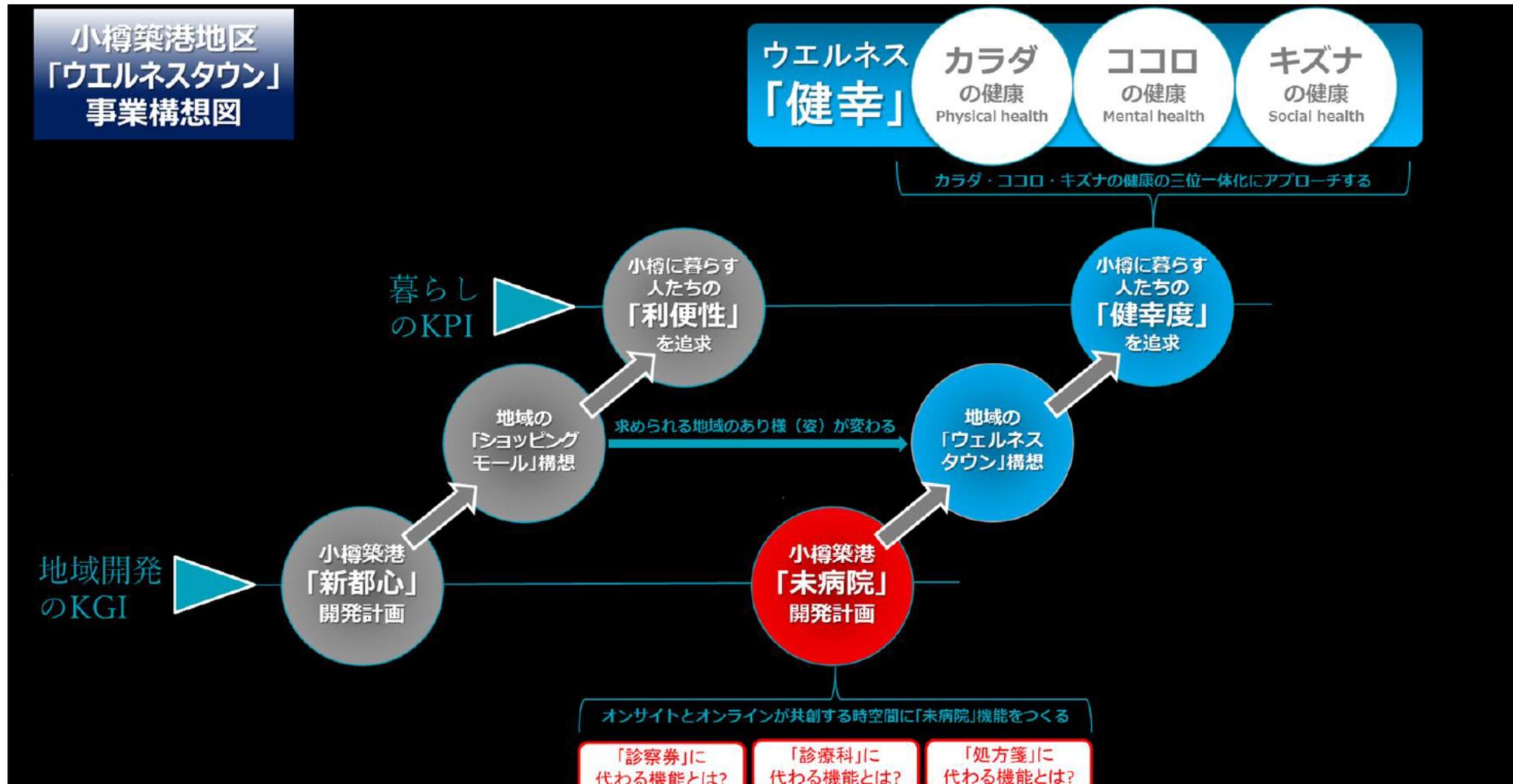
時期	内容
2019年12月	✓ ウイングベイ小樽、済生会小樽病院等が健康増進事業の企画、運営で合意。
2019年12月	✓ 当局と小樽ベイシティ開発等の関係者と意見交換。（初） ✓ ウェルネス事業構築に向けて協議会や大学と協力体制を構築。
2020年3月	✓ ウェルネス事業実現に向けた、次年度取組の整理。 ✓ 済生会小樽病院に対し、多様な医療・福祉関連のソリューション紹介。
2020年7月	✓ 小樽ベイシティ開発と済生会小樽病院が「ウェルネスタウン構築に関する協定書」を締結。
2020年8月～9月	✓ 小樽ベイシティ開発、済生会小樽病院が小樽市へ本事業への協力等についてアプローチ。
2020年11月	✓ ウェルネスタウン事業の将来構想として「CCRC（生涯活躍の街づくり、地域包括ケアを体現する街づくり）」を目指すことを決定。 ✓ 済生会小樽病院にある、相談機能等をウイングベイに一部移転決定。（済生会ビレッジ）
2021年1月	✓ ウェルネスタウン事業の方向性整理。 ✓ 北海道ヘルスケア産業振興協議会を中心とし、CCRC実現を目指し、次年度の取組内容を整理。 ✓ 検討委員会の正式な立ち上げ。

### III. ウェルネス事業創出計画

1. 事業計画を推進するウェルネスの概念「未病院構想」
2. ウェルネス事業創出計画（全体像）
3. リビング・ラボ機能の充実
4. 創出するウェルネス事業（案）
- 5.リビング・ラボ活動の推進体制（MAP'S + O の体制）
6. 実施スケジュール
- 7.リビング・ラボ活動を継続するための収支モデル

# 1. 事業計画を推進するウェルネスの概念「未病院」

- 2021年9月に事業アドバイザーの西根英一氏（株ヘルスケアビジネスナレッジ代表）が提案。
- カラダ・ココロ・キズナの健康を、縦割りではなく三位一体的に展開することがポイント。



# 【参考】 ウェルネスとは？

一言で言うと「ウェルネス＝健やかで幸せな生活」

## ウェルネスとは What is Wellness?

- 輝くように生き生きしている状態 Halbert Dunn (1961)
- 「身体的、精神的、社会的に健康で安心な状態」 Global wellness Institute (2015)

時代によって変化→現代・次代の新しいウェルネス観の提唱

身体の健康、精神の健康、環境の健康、社会的健康を  
基盤に、豊かな人生をデザインしていく・自己実現



## ウェルネスとヘルスの関係



## 2. ウェルネス事業創出計画の全体像

### 小樽築港エリアをフィールドとし、ウィングベイ小樽を拠点としたリビング・ラボ機能の強化

機能

- ✓ 地域内外の多様な事業者・団体・個人によるウェルネス事業化のチャレンジを推進
- ✓ アイデアの構想からプロトタイプ化、社会実装までを推進をサポートする拠点を目指す

事業

- ✓ 済生会ビレッジを拠点とした新たな保険外サービス【予防－医療－介護福祉を包含】
- ✓ これからのウェルネスな働き方・住まい方・生き方を提案するサービス【新しい商業施設の提案】
- ✓ 地方創生に係る小樽市の施策に寄与するサービス【保健事業からまちづくり施策までを包含】

市民の起業やまちづくり活動促進

既存テナントによる事業化  
新規テナント誘致の契機に

ウェルネス事業の全市展開  
(市全体への貢献)

小樽築港＝ウェルネスタウンとしてのブランド化  
(移住・定住、人口流出防止、二地域居住、ワーケーション等「新たな人流」を促進)

### 地域内外の多様なステークホルダーによる推進体制の構築

ウェルネス事業推進委員会【事務局：21総研】

小樽市役所

小樽築港エリアの活性化に貢献したい  
事業者・団体・個人

## 3. リビング・ラボ機能の充実

### 【1】リビング・ラボ導入の背景・目的

- 人口減少・高齢化が進展する中、地方自治体においては税収減、社会保障費増加により、財源が限られる中で、これまでと同様の公共サービスを提供することは限界。
- 人口減によるマーケット規模の減少で住民の生活を支えた民間事業者の事業継続は困難な状況。
- このため「地域・社会課題解決」を共通目標として、官民がお互いの強みを持ち寄り共創し、多様化する地域・社会課題や住民ニーズに対応する事業を継続的に創出する仕組みづくりが必要。
- 地方自治体では、「官民連携」という切り口で、行政サービスの外部化等を通じて民間事業者との連携を促進しているが、「官民共創」の視点やその実現に向けた手法を熟知していないのが現状
- また、サービスの効率性と質の維持・向上を図るため、デジタル技術は今後不可欠となるがその活用も十分とは言えない状況

### 「リビング・ラボ」機能を活かした官民共創による地域活性化の推進

- 最低限のコストで最大限のニーズに応える「小さくて大きい政府」（自治体目線）
- 地域・社会課題解決に資するビジネスチャンスの拡大（民間目線）

## 3. リビング・ラボ機能の充実

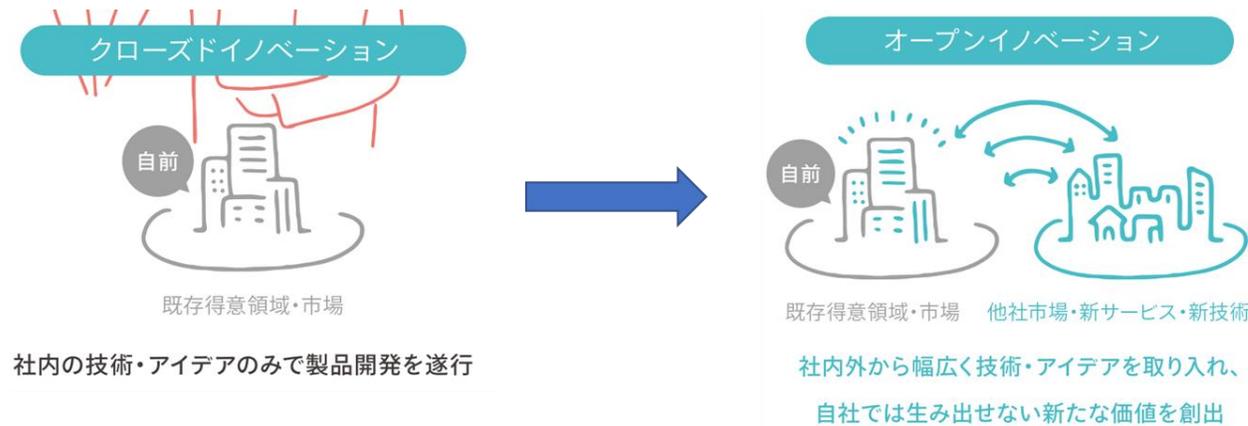
### 【1】リビング・ラボ導入の背景・目的

- 実績が乏しい地域ベンチャーでは、自社のアイデアや商品サービスの実施成果を可視化し、それをもとにプロモーションしたいニーズがある。また、大手企業ではCSVの観点から、地域と密着した事業活動を推進している。
- 地方自治体では、地域・社会課題の解決に資するアウトカムが得られる民間事業者との連携を望んでいる。特に、当該サービスの実施による医療・介護費の削減効果等が見込まれれば、PFSの導入により民間活力を活かした費用対効果の高い事業化が図られる可能性がある。
- これらから、地域ベンチャーや大手企業、地方自治体との共創により、新たなアイデアやサービスを地域（地域住民）をフィールドに実証したり、取組をさらにブラッシュアップしながら、その成果を地域に還元するニーズが高いと想定される。
- こうした取組を促す仕組みとして、地域住民を巻き込んだ共創のかたちとして、「リビング・ラボ」機能を地域に確立することが重要である。

### 3. リビング・ラボ機能の充実

#### 【2】リビング・ラボ機能について

- ウェルネスをテーマに住民・企業・団体の「アイデア」や「プロジェクト」をかたちにするため、小樽築港をフィールドとした「オープンイノベーション」を推進します。



- オープンイノベーションの手法のうち、「生活の場」「ユーザー・市民目線」を重視する「リビング・ラボ」としての機能を確認します。
- リビング・ラボとしての活動を通じて、ウェルネスに係る「企業」のサービス開発、「市民」による起業やまちづくり活動、「行政」の新たな施策開発を推進します。

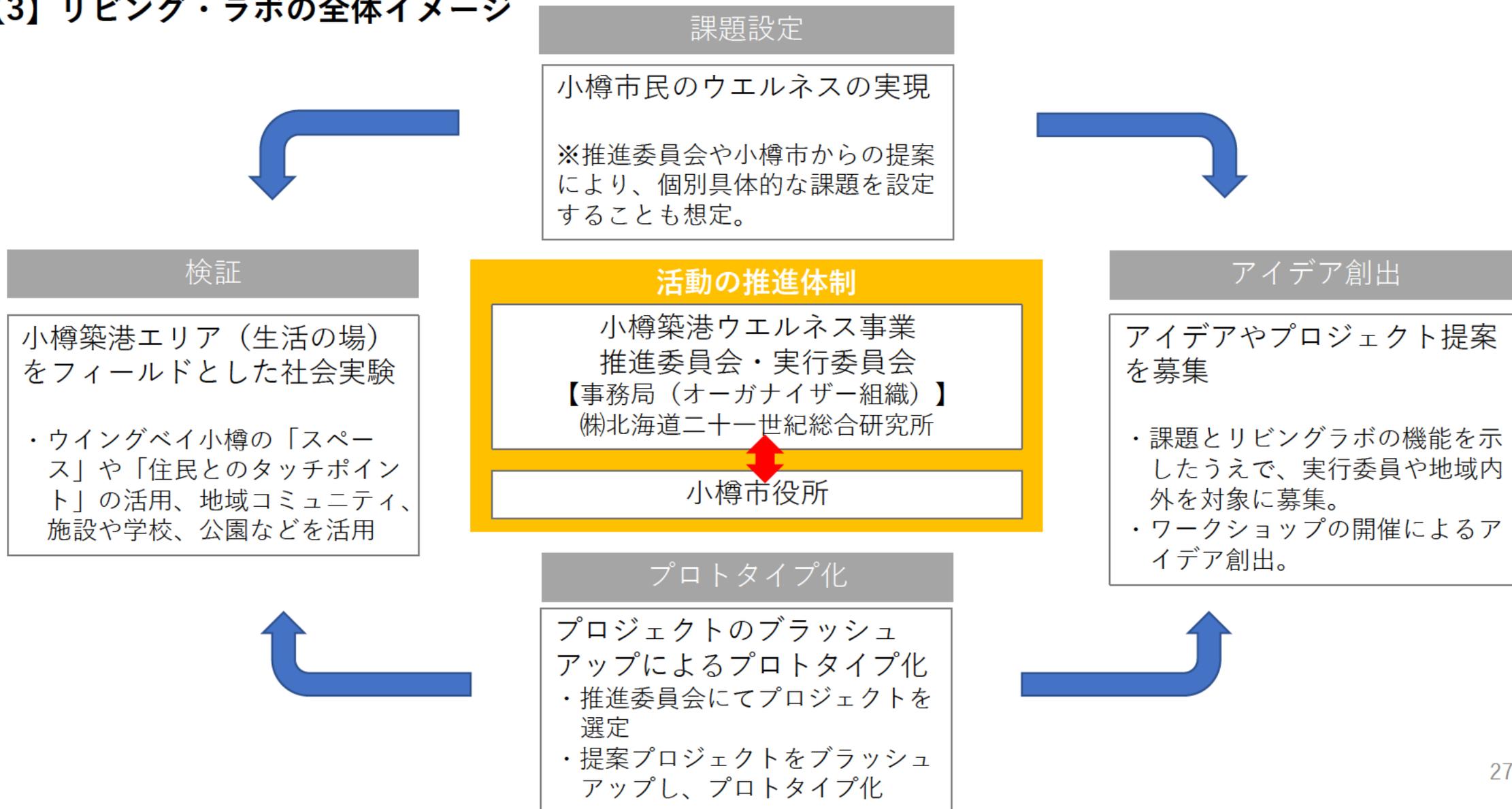
#### ■リビング・ラボとは

身の回りの社会課題を見出し、解決するための新しいサービスや商品を、企業や市民、行政等との共創により生み出す研究の場

課題設定→アイデア創出→プロトタイプ化→検証の一連のサイクルを実施。

### 3. リビング・ラボ機能の充実

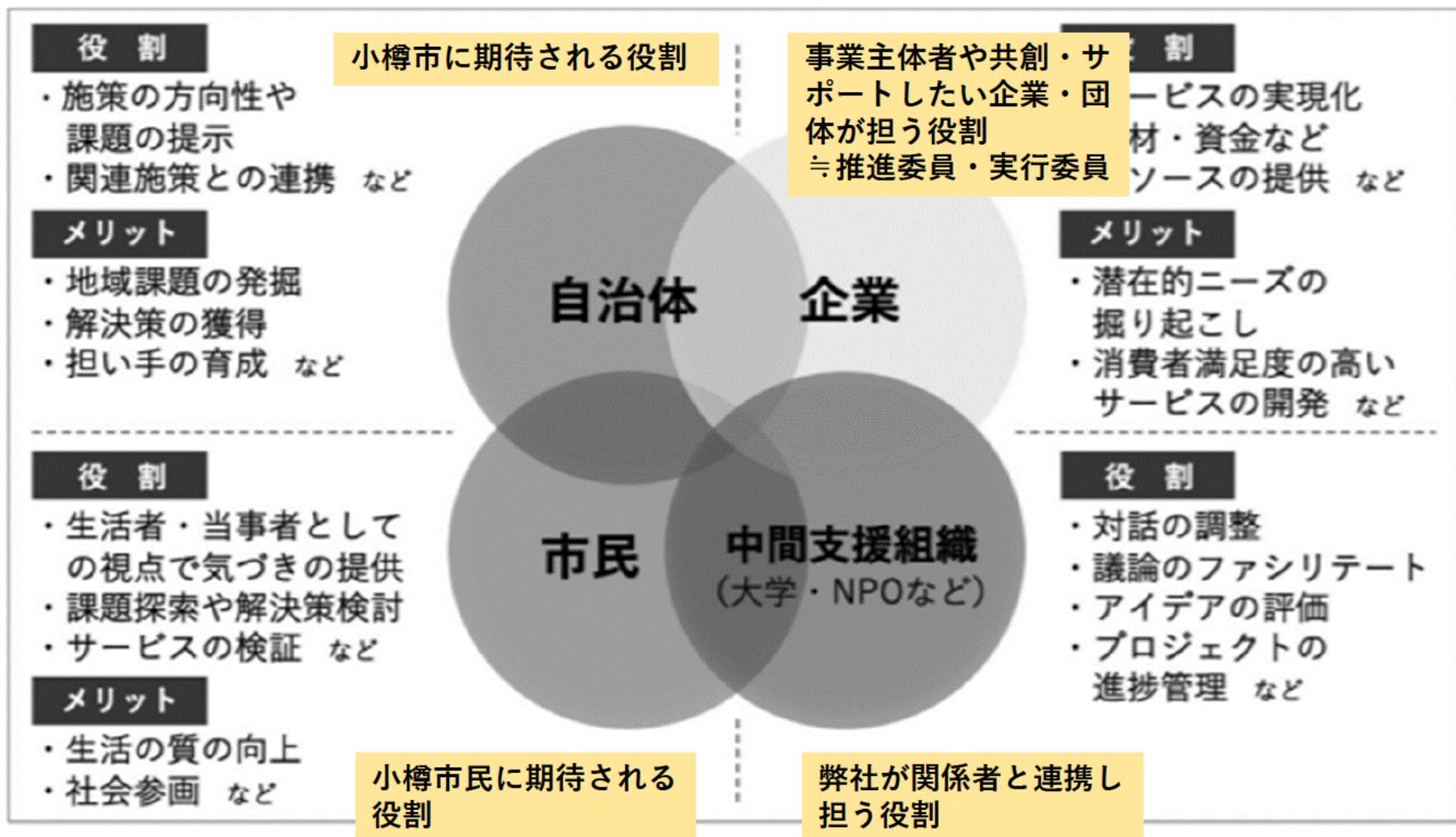
#### 【3】リビング・ラボの全体イメージ



### 3. リビング・ラボ機能の充実

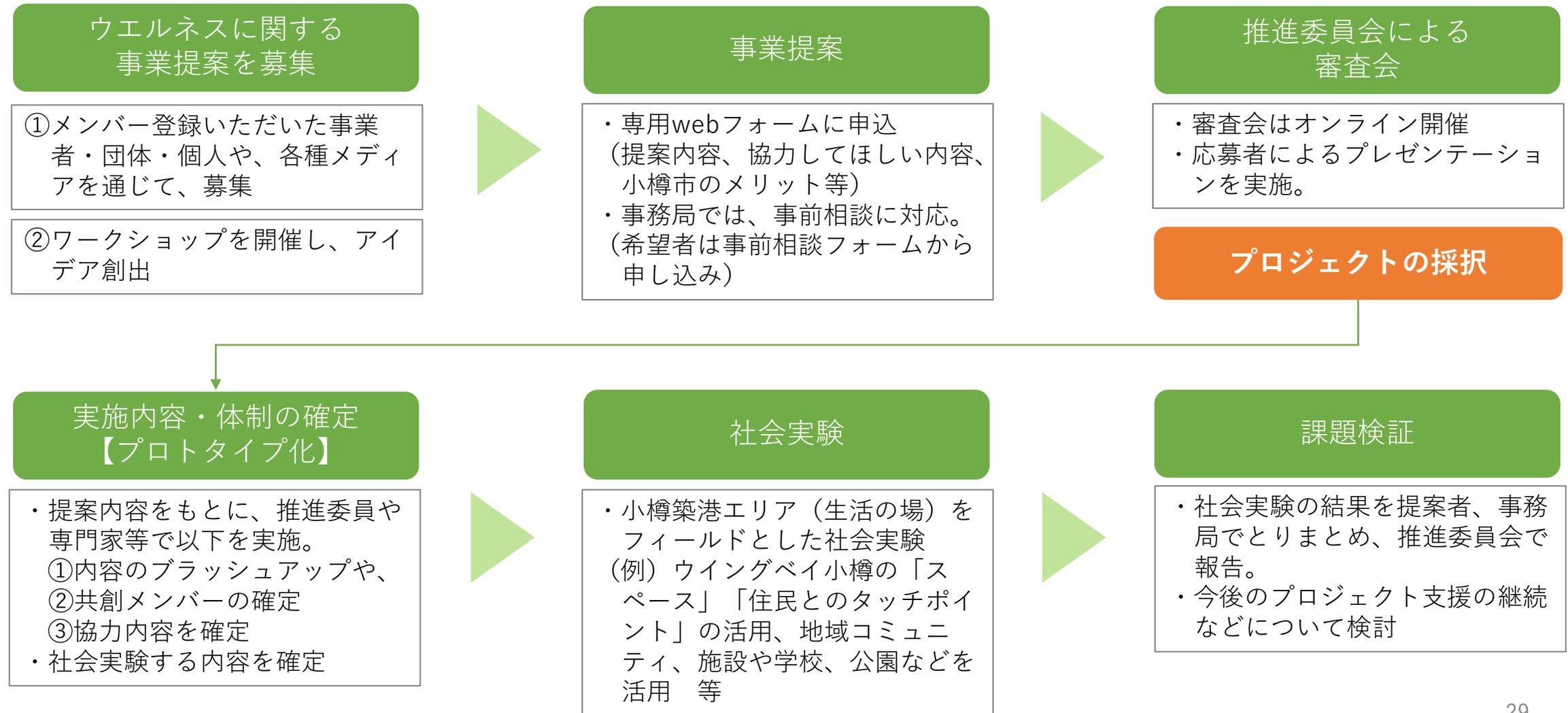
#### 【4】リビング・ラボの構成員とその役割

- 弊社が関係者と連携し、中間支援組織としての役割を担います。



### 3. リビング・ラボ機能の充実

#### 【5】リビング・ラボの活動フロー



## 3. リビング・ラボ機能の充実

### 【7】創出サポート内容・方法

#### ■おもに推進委員を通じたサポート内容

- ① 消費者や地域住民とのタッチポイントを活かしたプロジェクトの広報支援
- ② ウイングベイ小樽の空きスペースの一定期間の無償提供
- ③ ウイングベイ小樽のコワーキングスペースとしての開放
- ④ テナント企業とのマッチング支援
- ⑤ 地域の関係者とのネットワーク構築支援
- ⑥ 実証モニターの確保支援
- ⑦ 済生会ビレッジの活動との積極的な連携
- ⑧ メンターとしてのアドバイス（ブラッシュアップ）
- ⑨ 資金的サポート（一般的な協賛、自社サービス開発に役立つアイデアへの対価等） 等

#### 【参考】

#### 横瀬町のサポート

みなさんの実現したいプロジェクトを成功させるために、横瀬町も様々なサポートを行なっています。横瀬町の資源を最大限に使って、一緒にプロジェクトを成功させましょう！

- ✔ 行政権限を生かした法的なサポート（特区申請など）
- ✔ 民間だけではできない、公共領域に協力を要請をサポート
- ✔ Wi-Fi等が使える、現地オフィスも利用可能
- ✔ 町民の協力依頼、呼びかけなどの支援
- ✔ 横瀬町公認プロジェクトとして、広報等が可能
- ✔ 町の広報誌やSNS、Webサイトを利用した広報支援

様々な支援が可能です。まずは、横瀬町とどんな取り組み方ができるか、お気軽にご相談ください。

出典：横瀬町「よこらぼ」ホームページ

## 4. 創出するウェルネス事業（案）

### 【全体像】

#### 1 ヘルスケアを中心としたウェルネス事業【予防－医療－介護福祉を包含】

次年度一部  
実証開始

##### 【1】 制度の間隙を埋める保険外サービスの創出

- ✓ 済生会小樽病院や、高齢者、障がい者、地域住民向けに済生会が提供するサービス拠点「済生会ビレッジ」と連携し、既存制度ではカバーしきれない課題を解決する新たな保険外サービス等を創出

##### 【2】 小樽市の健康づくりや保健・介護予防施策に関連するサービスの創出

- ✓ 【1】の取組や北海道ヘルスケア産業振興協議会、SPOPLA北海道と連携し、小樽市（行政）の健康づくりや保健・介護予防施策の効果を高める取組の社会実験を推進  
（特定健診・特定保健指導実施率の向上、がん検診受診率の向上、健康ポイントの効果的な活用、介護予防と保健事業の一体化の推進、生活支援体制整備の推進など）

#### 2 ウェルネスな働き方・住まい方・生き方を提案するサービス【新しい商業施設の提案】

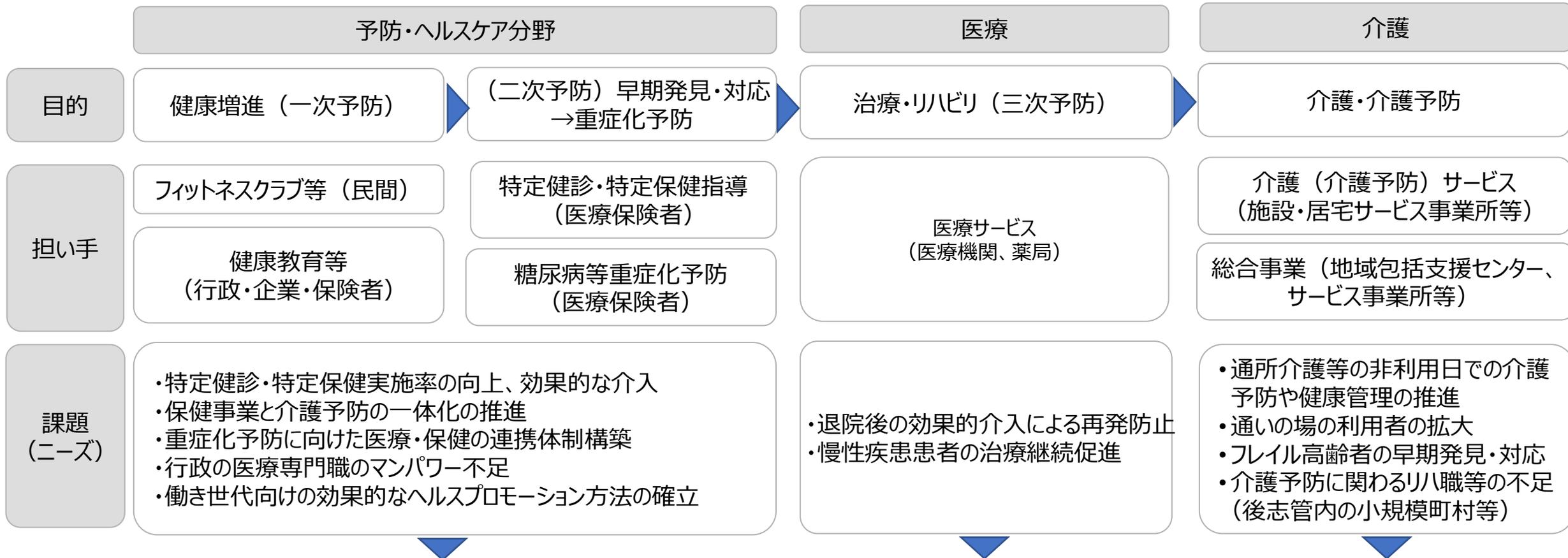
次年度から  
アイデア  
創出

- ✓ ウィングベイ小樽を拠点に、買い物機能に留まらない「新しい商業施設」の機能を提案
- ✓ 具体的には、ウェルネスな働き方・住まい方・生き方など、1，2以外のウェルネス事業を創出。  
（コワーキング、ワーケーション、サードプレイス、大学サテライト、住宅、CCRC…）
- ✓ 小樽市の移住・定住、観光施策等の効果を高める取組の社会実験を推進

# 【1】北海道済生会との連携を軸としたウェルネス事業（案）

## ① 基本的な考え方

- ✓ 北海道済生会と民間事業者や小樽市等との連携により、済生会ビレッジやウィングベイ小樽を活用した「予防ヘルスケア」分野におけるサービス、「医療・介護保険制度を補完する」サービスを創出する。



北海道済生会と民間事業者や小樽市等との連携による新たなウェルネス（ヘルスケア）事業の創出

## 【1】北海道済生会との連携を軸としたウェルネス事業（案）

### ② 済生会ビレッジについて

- 北海道済生会では、介護・福祉に関する様々な機能をウイングベイ小樽に集約化（済生会ビレッジの設置）。
- 済生会ビレッジでは、制度に基づくサービス以外に、ウェルネスチャレンジ事業やフードバンク事業等の制度の枠を超えた事業も展開している。

#### 済生会ビレッジ【住民の健康づくり、社会的処方への推進拠点】

##### 高齢者介護や障がい者福祉制度に関するサービス機能

発達支援事業所  
きっずてらす  
きっずてらす2号店

小樽市南部地域包括支援センター

##### 地域ケアセンター

居宅介護支援事業所「はまなす」  
(特定相談支援・障害者相談支援事業所)

済生会訪問看護  
ステーション

※本年中にウイングベイ小樽内にリハビリ特化型デイサービス事業所を開設予定

##### 制度外のサービスや事業高齢者介護や障がい者福祉制度に関するサービス機能

- ウェルネスチャレンジ（ウォーキングラリー、健康チャレンジ+10（健康経営推進）、キッズチャレンジ）
- 相談支援（無料定額診療、無料健康相談）
- 医療情報（ちょこっと健診等）
- フードバンク事業（生活困窮者支援、事業を通じた繋がりづくり。施設内に保管庫も整備予定）
- 介護予防教室の実施など（市委託による高齢者の保健事業・介護予防の一体化事業）

※レンタルキッチン事業も検討中

本事業では、ウイングベイ小樽の顧客とのタッチポイントなどを活かし、「制度のすき間を埋める」「制度・世代の枠を超える（地域共生）」  
「小樽市の課題解決」をキーワードとしたウェルネス事業の創出を支援。

## 【1】北海道済生会との連携を軸としたウェルネス事業（案）

### ③ PHR（パーソナルヘルスレコード）を活用したウェルネス事業の展開

- 弊社では、北海道経済産業局の委託事業（2021年度）において、旭川エリアを対象としたPHR実証を実施。
- 本事業のノウハウを横展開し、北海道済生会と連携したPHR活用型ヘルスケアサービス創出を目指す。
- 中長期的には、小樽築港エリアさらには市全域による「地域住民の健康づくりを推進し、健康を見守る」PHRプラットフォームの運営可能性を検討。「安心して暮らし続けられる」価値を創出する。

#### 小樽築港エリアPHRプラットフォーム（住民のバイタルデータ、健診、レポートデータの一元化）

各機関での活用

医療機関

保健調剤薬局

自治体  
(保健事業等)

介護・福祉  
(高齢者・障害者)

民間事業者  
(パーソナルジム等)

住民・患者

- 【提供価値①】 市内の医療専門職（+市外の潜在医療専門職）が住民の生涯の健康を見守る（アラート）
- 【提供価値②】 医療専門職による介入の質の向上（オンライン診療、服薬指導、保健指導、ケアマネや看護師のアセスメント・モニタリング）
- 【提供価値③】 新たな保険外サービスの創出（退院後フォロー、自立支援・介護予防、ワーケーション等）
- 【提供価値④】 効果的なヘルスプロモーション（ウォーキングキャンペーン等の円滑・効果的な運営）
- 【提供価値⑤】 地域住民（個人）の主体的な健康管理、健康づくりの推進

# 参考：旭川エリアで進めているPHR実証のシステム【経産局事業】

## 住民（個人）による健康管理

### ■ 血圧計（医療機器）

OMRON上腕式血圧計 HEM-7271T  
(オムロンコネクスト連携)



### ■ 体重体組成計

HBF-702T カラダスキャン  
(オムロンコネクスト連携)



### ■ ウェアラブルデバイス

Fitbit Luxe (fitbitアプリ連携)



血圧  
脈拍

体重

歩数  
睡眠時間

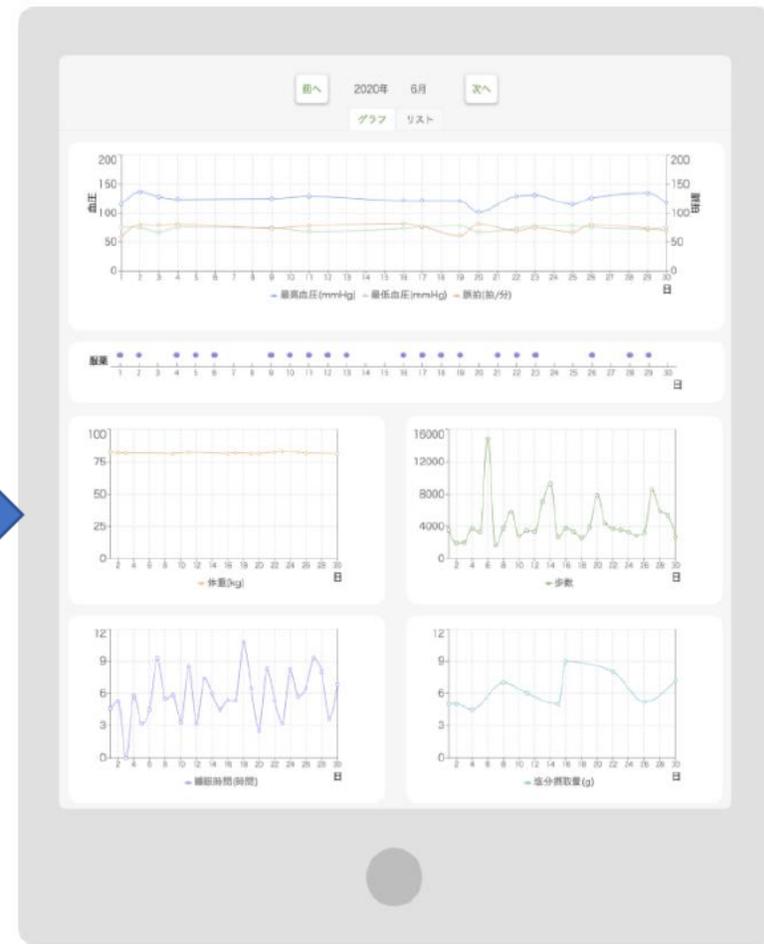
### ■ スマホ用健康管理アプリ

「すこやかダルマ」 (ORSO社)



## 医療従事者による活用

### ■ webサービス (Logmoni)

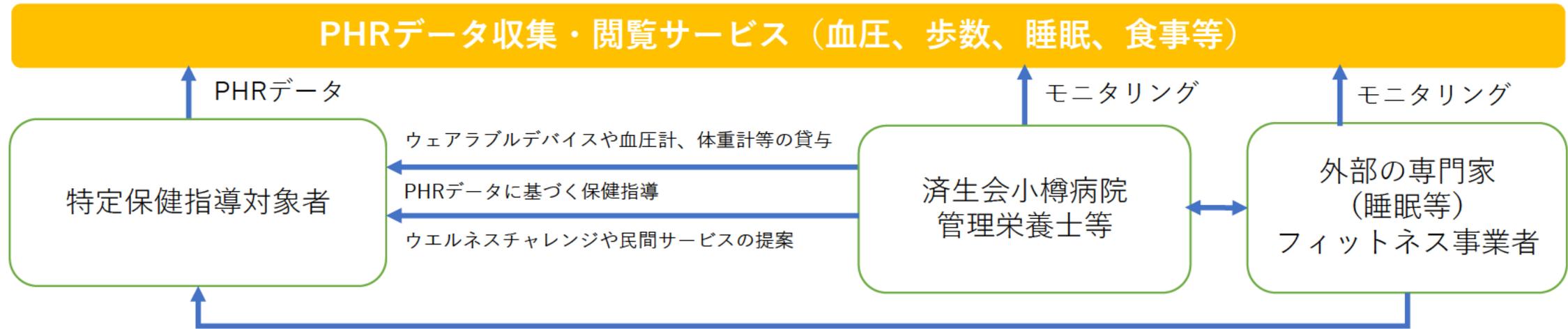


出典：オムロン(株)ホームページ、(株)ORSOホームページ  
fitbitホームページ

## 【1】北海道済生会との連携を軸としたウェルネス事業（案）

### ④ プロトタイプ化・実証案 ア 特定保健事業の介入効果をも高めるPHRの活用

- 小樽市においては、特定保健指導実施率や継続率、介入効果（＝行動変容）をいかに高めるかが課題
- 受託医療機関である済生会小樽病院において、PHRを活用した保健指導を実施し、継続率や介入効果について検証。
- PHRデータに基づく医療専門職の保健指導やウェルネスチャレンジ等ウイングベイ小樽の利用を促進する取組と連携。
- 対象者の希望に応じて、睡眠アドバイザーによる健康相談、トレーナーによる運動指導（オンラインフィットネス）等も実施（有料）
- 実施日の調整はスケジュール調整ソフトを活用したりオンラインで保健指導するなど、業務の効率化・円滑化を考慮



【横展開】市内の特定保健指導受託医療機関への普及・拡大

【応用①】ウイングベイ小樽での高齢者通いの場参加者向けサービス展開（介護予防＋保健事業の一体化）

【応用②】退院後の再発予防を目的としたモニタリングサービス展開（医療機関と民間事業者連携）

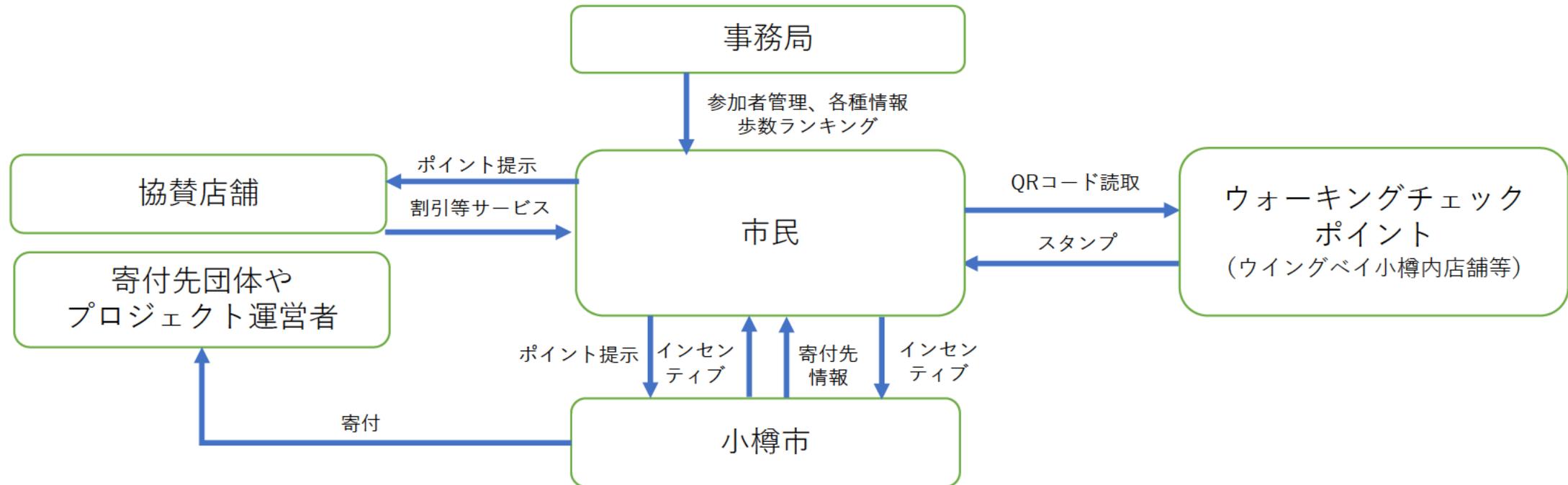
【応用③】健康経営を推進する企業従業員向けのサービス展開（民間事業者）

【応用④】ワーケーションの新たな価値としてのサービス展開（民間事業者）※滞在期間中にウェルネスを見直す

## 【1】北海道済生会との連携を軸としたウェルネス事業（案）

### ④ プロトタイプ化・実証案 イ カラダ×キズナの健康をつくるウェルネスチャレンジ

- 済生会ビレッジで実施しているウォーキングプログラムをブラッシュアップ。
- ウォーキングアプリを活用し、年代や障がいの有無問わず一体的に実施。「歩くこと」から行動変容を促進。
- ウイングベイ小樽や地域の施設等にチェックポイントを設置。QRコードでポイントをゲット。（公式LINEサービス）
- ポイントをためて、ウイングベイ小樽の協賛店舗でのサービスを受けられる。
- 小樽市健康ポイントとも連携。ポイントは、地域の団体や取組に寄付も可能。キズナの健康も創出。
- 企業から団体への直接寄付から、企業から本事業協賛へ転換により、住民を巻き込んだコミュニティ形成にも繋がる
- 本事業を通じて参加者コミュニティを構築（ウェルネスクラブ化）。リビングラボの活性化にも貢献



## 【2】ヘルスケア・スポーツ関連団体との連携による事業化の促進

### ① 北海道ヘルスケア産業振興協議会及びSPOPLA北海道（いずれも弊社事務局）

- スポーツやヘルスケアをフックに新たな事業創出を目指すプラットフォームとして活動しています。
- 本事業のコンセプトである「官民連携」あるいは「異業種連携」をコンセプトとし  治体＋企業、企業間マッチングや等の実績があります。



#### 北海道ヘルスケア産業振興協議会の概要

北海道において、医療・介護機関と民間サービス事業者等との連携を促進することで、**地域特性を踏まえたヘルスケア産業を創出・育成**し、地域に住民の健康寿命延伸、新産業・雇用創出、医療・介護費の適正化に貢献することを目的としている。医療・介護事業関係者をはじめ小売、IT、製造業など、146事業者が参加。

【設立】平成27年4月1日

【活動内容】

- ヘルスケア産業の創出に寄与する研究会（勉強会）の開催
- ヘルスケア産業に関する情報収集・情報発信等
- 会員とのマッチング、専門的人材の紹介等、ビジネス化に向けた個別支援
- 地域における公的保険外サービスモデルの実践
- 地域資源を活用した「医・農商工連携」

#### SPOPLA北海道の概要

北海道における「スポーツ×異業種」の新たな産業創出を推進するため、北海道スポーツ関連産業創出プランに沿って、専門家によるコーディネートやビジネスマッチング等の支援を行うプラットフォーム。スポーツチームをはじめジム・フィットネス、メディアなどの460事業者が参加。

【設立】平成30年3月

【北海道スポーツ関連産業創出プランで掲げる4つの柱】

1. プロスポーツチームとの連携
2. エンタメ産業（IT・コンテンツ・観光）との融合

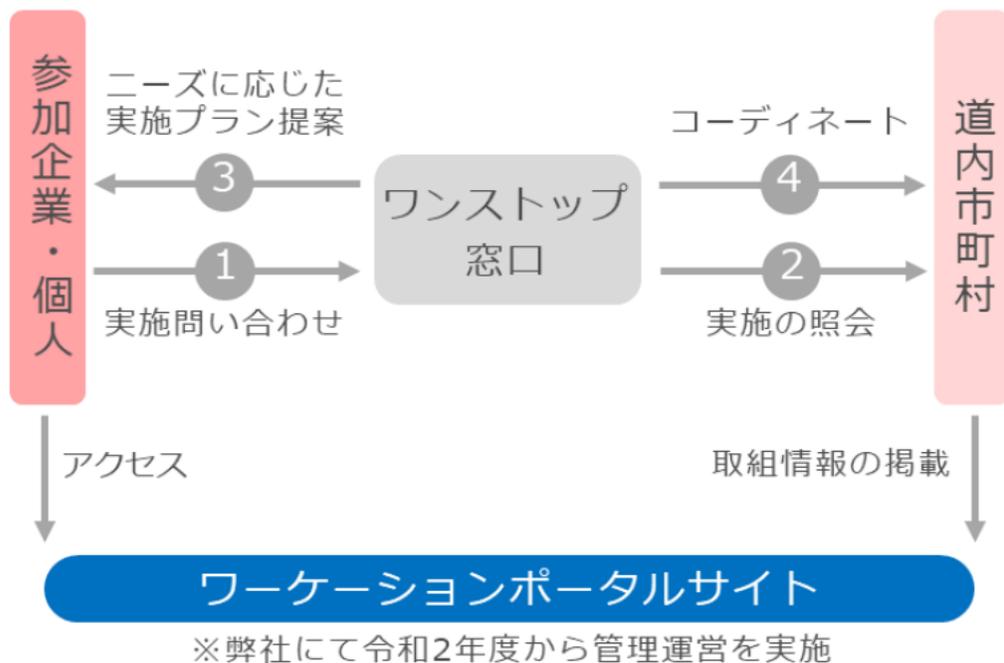
#### **3.ヘルスケア産業との融合**

- ※スポーツ科学やエンターテインメントの要素の導入により、健康行動の変容や継続に貢献する新たなサービスを創出することで、社会保障費の適正化を図り、地域の持続的発展に貢献
- 4. スポーツイベント・合宿誘致等による地域の賑わい創出

### 【3】ワーケーションに関する事業化促進

- 弊社では、令和2年度から「北海道型ワーケーション普及・展開事業（北海道委託）」の運営事務局を担当し、ワーケーションに取り組む道外企業、受け入れる道内自治体等とのネットワークを有しています。
- ウィングベイ小樽を拠点とした「ワーケーション」プランの構築や、道内外企業によるワーケーションの実証候補として小樽エリアを位置づけて、取組を推進します。

【ワーケーション事業におけるマッチングスキーム】



## 【4】小樽商科大学との連携による事業化促進

- 小樽商科大学ビジネススクール「ヘルスケア×マネジメントコース」との連携し、以下を実施します。

### ① 2021年度と同プログラム受講者からのビジネスアイデアをもとにしたプロジェクト支援

タイトル	内容
ベストシューフィット	子供から高齢者までの足のトラブルを未然に予防し健康寿命の延伸に貢献する。
つながる元気トーク	対面とオンラインをミックスしたコミュニケーションにより、ITリテラシー・ヘルスリテラシーの向上を図る。
りんご教室	道内の医療従事者よるエビデンスに基づく健康講座を開催し、参加者をアンバサダーとしたヘルスプロモーションを推進する。

### ② 「ヘルスケアビジネス”creaction”プログラム」

- “クリアクション”（Creaction=Create+Action）とは、とにかくまず実行してみて、その結果から繰り返し学んでいく方法を指します。
- リビング・ラボにおいて、レクチャーならびにワークショップを通じて新たなビジネスアイデアを生み出し、ウイングベイ小樽というフィールドで実践します。

## 5. リビング・ラボ活動の推進体制（MAP'S+Oの体制）

### 【1】推進体制のイメージ

- 経済産業省の「地域の持続可能な発展に向けた政策の在り方研究会」報告書」では、これからの地域の持続的にに向けた体制として、MAP's+Oというモデルを提起しています。
- 本事業計画における「リビング・ラボ活動」の推進するにあたり、この考え方をもとに体制を構築します。
- MAP's+Oは、まちづくりや、地域づくりにおける次のプレイヤーの頭文字を意味しています。

対象	概要	本事業では
マネージャー (Manager)	地域の持続的発展に取り組む中核的な人材（地域内人材と地域外人材が連携する場合を含む）	弊社河原（小樽商大藤原氏と連携）
アグリゲーター (Aggregator)	広域で複数の地域に、地域の持続的発展に資する製品又はサービスを供給する地域外法人	推進委員の一部 実行メンバー
プレイヤー (Player)	マネージャー及びオーガナイザーに対し、協力・連携する地域内外の法人（又は人材）	推進委員
サポーター (Supporter)	地域の持続的発展に取り組む人材・組織への支援を行う地方公共団体又は国	小樽市（現在はオブザーバー） 北海道経済産業局
オーガナイザー (Organizer)	マネージャーが所属する組織であり、アグリゲーター及びプレイヤーと連携する主体であり、サポーターの支援先である取組の中心的な役割を担う地域内法人	(株)北海道二十一世紀総合研究所

## 5. リビング・ラボ活動の推進体制（MAP'S+Oの体制）

### 【2】小樽築港地区ウェルネス事業創出推進委員会

- 北海道済生会、小樽ベイシティ開発など小樽築港地区で事業活動をするプレイヤーや大学等を中心に構成され、ウェルネス事業の方針・テーマの策定、事業実施の意思決定、事業の進捗管理・サポート等を実施します。

- ① 事業者・団体・個人から応募のあったウェルネス事業提案の審査
- ② 採択となったウェルネス事業のプロトタイプ化・社会実験に向けたサポート
  - ア メンターとしてのアドバイス（ブラッシュアップ）
  - イ 共創先としての連携
  - ウ 共創しうる主体とのネットワーク構築支援（実行委員との連携など）
  - エ 実証フィールドの提供や実証フィールド確保に向けたサポートなど、各種支援
- ③ 実証プロジェクトの評価

## 5. リビング・ラボ活動の推進体制（MAP'S+0の体制）

### ①推進委員（敬称略）

組織名	期待される役割	推進委員
(株)小樽ベイシティ開発 (商業施設)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型商業施設「ウイングベイ小樽」を運営。</li> <li>同施設を拠点としたウエルネス事業の実施主体。</li> <li>ウエルネス事業創出に向けたスペース提供など</li> </ul>	代表取締役社長 橋本茂樹 同 社長室 内藤雄介 同 統括部 齋藤修治、岩本春樹
北海道済生会	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウイングベイ小樽に近接する済生会小樽病院等を運営</li> <li>済生会ビレッジでのウエルネス事業の実施主体。</li> <li>医療資源を活用した事業の実施主体やサポート。</li> </ul>	常務理事 櫛引久丸 小樽市南部地域包括支援センター 飛内 真理子
(株)ソプラティコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウイングベイ小樽内フィットネスクラブであり、ヘルスケア・スポーツ・エンタメをキーワードとした事業主体</li> </ul>	代表取締役 大場隆志
さくらCSホールディングス(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護・福祉サービス、人材サービス、教育・研修、海外事業、ものづくり事業、ICT事業など幅広いウエルネス事業参画を期待</li> </ul>	代表取締役 中元秀昭
小樽商科大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や研究の一環として学生・教員の人的リソース提供</li> <li>新たなビジネスアイデアの創出</li> </ul>	ビジネススクール准教授 藤原健祐 学生課 高山慎太郎
北海道教育大学岩見沢校	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上</li> </ul>	芸術・スポーツビジネス専攻 准教授 鈴木哲平
北海道科学大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤師、薬局等と連携したウエルネス事業創出など</li> </ul>	薬学部 教授 山下美妃 准教授 若命浩二
北海道経済産業局	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業推進に係るアドバイスや国の補助金等の活用支援</li> </ul>	地域経済部健康・サービス産業課
(株)ヘルスケア・ビジネスナレッジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエルネス事業の創出に向けた外部アドバイザー</li> </ul>	代表取締役社長 西根英一 (事業構想大学大学院特任教授)
(株)北海道二十一世紀総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーガナイザー組織。リビングラボ運営の中間支援組織。</li> </ul>	調査研究部次長 河原岳郎 (マネージャー)
小樽市（オブザーバー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>小樽市のウエルネスに係る課題解決ニーズ提供</li> <li>済生会小樽病院と連携したウエルネス事業展開</li> <li>各計画におけるウエルネス事業の導入など</li> </ul>	福祉保険部、保健所

## 5. リビング・ラボ活動の推進体制（MAP'S+Oの体制）

### ②弊社の役割

- リビング・ラボ活動の事務局業務及びファシリテーターとしてプロジェクトを推進します。
- 北海道済生会や小樽市保健・福祉部署との連携事業については、プロジェクト提案者として事業を実施します。

(1) 事業者・団体・個人への募集から審査に至る事務局業務

(2) 採択となったウェルネス事業のプロトタイプ化・社会実験に向けたサポート

①推進委員や実行委員、小樽市との連絡調整

②プロトタイプ化に向けた採択者と推進委員等との対話のファシリテート

③プロジェクトの進捗管理

④採択者への各種相談支援・アドバイス等

(3) ウェルネス事業の提案・実施（北海道済生会や市との連携）

## 5. リビング・ラボ活動の推進体制（MAP'S+Oの体制）

### 【3】 ウェルネス事業の実施等に関心がある主体とのネットワークの活用

- 12月に実施した本事業計画の策定に関するプレスリリースを契機として、ウェルネス事業の実施等に関心がある地域内外の事業者・団体・個人とのネットワークを構築しました。（以下、実行メンバー）
- こうした実行メンバーとのネットワークを活かし、2021年度開催するワークショップの参加、2022年度から進めるウェルネス事業の提案などを促進します。

#### ■実行メンバーの概要（2022年3月7日現在）

【登録者数】 118名（医療・介護系17名、大学10名、企業45名、団体13名、自治体1名、個人32名）

【実施したい内容】 次ページ

## 5. リビング・ラボ活動の推進体制（MAP'S+Oの体制）

### 【実行メンバーがチャレンジしたい内容（登録時の内容を掲載）】

- 健康体操等の配信動画や、地域コミュニティの構築に関するノウハウの提供
- オンライン上での食の健康講座
- 介護旅行を通じて地域の「健幸」に貢献したいと考えております。
- ウェルネス＝お年寄りのもの、というイメージを払拭したい。
- Well-beingの測定及び動機付けに関するシステム提供
- 漢方医学と西洋医学を活用したヘルスケアにより、プロジェクトに貢献したいと考えています。
- 日常の健康維持を助ける弊社の特許技術の提供
- いつまでも歩き続けるために、運動器を長持ちさせて健康寿命を延ばしていく活動を事業目線で実施していきたいと考える
- IT×ヘルスケアといったキーワードの事業活動
- 通いの場づくり、健康ポイント事業
- 高齢ドライバーへの身体能力低下予防プログラムを提供する活動。運河を利用したリクリエーションプログラムの企画や提供等
- ココロの健康について、運動・食事・生活習慣のサポートをしていけるようなビジネスを展開していきたい
- オンラインによる食事指導、料理教室、栄養に関すること全般、日々の食事から予防医療の啓蒙
- 主スポーツのオフトレになるトレーニング子供の可能性を広げるスポーツ学習、インターネットとテクノロジーを活用したカラダづくり、メンタルケアなどの仕組み化
- 整体やフットケアをする事により疲れた身体のリフレッシュとアンチエイジングを行う活動をしたいです。
- スラックライン、スラックレールというアイテムを使った子どもから大人の運動不足解消、高齢者の介護予防への取り組み
- スケートボードやBMX、MTBと言ったアクションスポーツができる場所を作りたい
- 腰痛予防や健康になれる運動や生活習慣の指導
- 3世代で取り組むフットケア(ベストシューフィット・アドバイザーグループウィングベイ小樽に組織を作る)
- 香り(アロマセラピー)の活用を通じて、毎日を心地よく過ごすための、心身にわたるホリスティックウェルネスの提案(メディカルアロマ講座、セルフトリートメントレッスン、アロマクラフトワークショップ、パーソナルケアの相談等)
- PSP（進行性核上性麻痺）の患者としての普及活動
- 支援する人が相互に入れ替わる様な「お互い様」で、緩やかに繋がる事業を企画運営が出来ればと思います。
- 調剤薬局として、ICTを利用した医療提供（オンラインでの服薬指導・服用期間中のフォロー）



## 7. リビング・ラボ活動を継続するための収支モデル

- 弊社が中間支援組織として、リビング・ラボ活動に継続的に関わるための収支モデルについて記載します。

### 【1】 弊社の収支構造

- 弊社の売上のほとんどは、各種調査や計画策定、プロジェクト運営・管理等に係る国や地方自治体からの委託事業や補助金等（BtoG）が占めています。
- これらの業務の支出構造は、人件費が多くを占める労働集約型となっているのが特徴です。

### 【2】 近年の傾向

- 近年では、以前と比べて各種調査や計画策定に関する業務は、案件自体が減少傾向にあること、参入事業者が増加していること、入札案件が増加していることなどから、受注件数は減少している傾向にあります。
- 一方、ヘルスケア分野、食分野（輸出関連）を中心に、民間事業者との連携により、プロジェクトを運営・管理したり、調査結果等をもとにした社会実装のサポート業務が増えてきています。
- ヘルスケア分野については、BtoGtoC型の事業主体としての実績（鷹栖町）も生まれています。
- また、北海道ヘルスケア産業振興協議会などの団体の事務局業務も行っています。

## 7. リビング・ラボ活動を継続するための収支モデル

### 【3】リビング・ラボの運営に関する弊社の考え方

- リビング・ラボ活動は、全国の事例のとおり、自治体や大学、社会福祉法人等が運営主体となる非営利活動であると認識しています。
- 弊社は株式会社ではありますが、以下のビジネスメリットや、既存の活動との連携可能性等を踏まえて、継続的にリビング・ラボ運営に関わっていきます。

#### ① ビジネスメリット

##### 【ヘルスケア事業の横展開の可能性】

- リビング・ラボで実証したヘルスケア事業の成果を、道内自治体に横展開することで、弊社の収益拡大に繋げる可能性があります。（BtoGビジネスの拡大）
- また、BtoG事業に留まらず、健康経営を推進するBtoB事業等への参入も想定されます。

##### 【リビング・ラボ型まちづくりの横展開の可能性】

- リビング・ラボは、オープンイノベーションの手法のうち、ビジネス創出に限らず、地域住民のチャレンジやまちづくり活動への主体的な参加を促進する効果的な手法です。
- リビング・ラボは北海道にはまだ存在せず、リビング・ラボ型のまちづくりを道内自治体あるいは大学等に提案し、その立上げや運営サポートに貢献できる可能性があります。（BtoG (B) ビジネスの拡大）

※例 総合計画の目玉としてリビング・ラボを導入するなど

## 7. リビング・ラボ活動を継続するための収支モデル

### 【3】リビング・ラボの運営に関する弊社の考え方

#### ② 既存の活動との連携可能性等

##### 【北海道ヘルスケア産業振興協議会との連携】

- 弊社では、新たなヘルスケアサービス創出のプラットフォームを目指して活動している北海道ヘルスケア産業振興協議会（経産省地方版次世代ヘルスケア産業協議会の北海道版）の事務局を担当しております。
- 同団体の活動コンセプトは「官民連携」「異業種連携」であり、リビング・ラボの運営は、会員に対し社会実装の機会を提供できるメリットが大きいことが想定されます。
- このため、リビング・ラボ活動を協議会事業の一つとして位置づけることを検討します。

※松本ヘルスラボ、高石健幸リビングラボでは、各地域で活動する次世代ヘルスケア産業協議会と連携

※実行メンバーには協議会会員が現在118名参加

##### 【小樽商科大学との連携】

- 小樽商科大学ビジネススクール准教授の藤原氏（推進委員）とは、リビング・ラボの運営に係るマネージャー（河原）の役割を補完いただき、円滑に活動を推進します。
- 小樽商大ビジネススクールの履修証明プログラム「ヘルスケア×マネジメントコース」では、巨大ショッピングモールで実装可能な製品・サービスをテーマとして、ビジネスアイデアを構想する授業を行っており、今後「ウイングベイ小樽」をテーマとしたアイデア創出も検討します。
- 学生の授業や研究の一環として、リビング・ラボを解放するほか、学生に運営に協力いただきます。

## 協議会の概要

北海道において、医療・介護機関と民間サービス事業者等との連携を促進することで、**地域特性を踏まえたヘルスケア産業を創出・育成**し、地域における住民の健康寿命延伸、新産業・雇用創出、医療・介護費の適正化に貢献することを目的としている。

## 設立

平成27年4月1日

## 会長・会員数

【会長】徳田 とくだ 禎久 さだひさ 氏（社会医療法人禎心会 理事長） 【会員数】152者（企業・団体・自治体 他）

## 事務局

(株)北海道二十一世紀総合研究所 TEL : 011-231-3053 E-mail : health@htri.co.jp

## 協議会HP

<http://www.hcs-hokkaido.net/>

## 取組内容

- ✓ ヘルスケア産業の創出に寄与する研究会（勉強会）の開催  
テーマ：アクティブシニア、食、地方創生・地域課題解決、医療・介護連携、運動等
- ✓ ヘルスケア産業に関する情報収集・情報発信等
- ✓ 会員とのマッチング、専門的人材の紹介等、ビジネス化に向けた個別支援
- ✓ 地域における公的保険外サービスモデルの実践



## 6. リビング・ラボ活動を継続するための収支モデル

### 【4】収支計画

#### ① 収入

- ア～オの収入をおもな収益源とした運営を目指します。

対象	概要	備考
ア 協賛金	推進委員や実行メンバーほか地域（おもに小樽市内）の企業団体からの協賛金	
イ リビング・ラボ 利用料	リビング・ラボに採択となったプロジェクトの事業主体からの、プロトタイプ化、実験・評価に係るサポート収入。	2023年度からの有料化を想定
ウ ウェルネスクラブ (仮称) 会費	アイデア・課題提供、社会実験のモニターとして協力のほか、リビング・ラボを通じて開発したヘルスケアプログラムの参加や協賛店舗の利用料金割引等が利用できる会員組織の会費収入	2023年度中の設立を検討。
エ 自治体からヘルスケア関連の委託事業	リビング・ラボで実証したウェルネス事業を、小樽市含めた道内自治体のヘルスケア事業として提案・採択となった場合の委託収入	後志広域連合関係町村（16町村）等
オ 国の補助金・委託事業	リビングラボ試行や、ヘルスケア社会実装等に活用できる補助金・委託事業	令和4年度「地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業（地域・社会課題の発掘と解決に向けたマッチング）」に応募

#### ② 支出

- 弊社研究員の人件費や事業創出に向けてアドバイス等をいただく専門家や協力者への謝金等がおもな支出項目として想定されます。
- 上記以外の費用は、プロジェクトの採択者に負担いただきます。

## 6. リビング・ラボ活動を継続するための収支モデル

### 【4】収支計画

#### ③ 収支計画（5年間）

- 収支計画は以下の通りであり、2025年度以降の黒字化を目指します。

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
①収入	150,000	1,050,000	2,100,000	3,150,000	3,200,000
協賛金	150,000	300,000	600,000	900,000	1,200,000
企業	5	10	20	30	40
負担金単価	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
リビング・ラボ利用料	0	500,000	1,000,000	1,500,000	1,000,000
実施件数	0	5	10	15	10
単価	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
ウエルネスクラブ（仮称）会費	0	250,000	500,000	750,000	1,000,000
会員数	0	50	100	150	200
単価	0	5,000	5,000	5,000	5,000
前期繰越					
②支出	1,400,000	1,800,000	2,100,000	2,400,000	2,700,000
人件費	1,200,000	1,500,000	1,800,000	2,100,000	2,400,000
人日	40	50	60	70	80
単価	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
事業費					
専門家謝金ほか経費（一式）	200,000	300,000	300,000	300,000	300,000
収支（①－②）	-1,250,000	-750,000	0	750,000	500,000

## IV. 資料編

# 小樽築港ウエルネスタウン構想に関するPR

- 12月3日にプレスリリースを发出（PRTIMES）。北海道経済記者クラブへの投げ込み（メディア23社）

## 小樽に暮らす人たちのための「未病院」を構想

小樽築港ウエルネスプロジェクト委員会が「ウエルネスタウン構想」の具現化に向け始動。実行委員会メンバーを広く募集

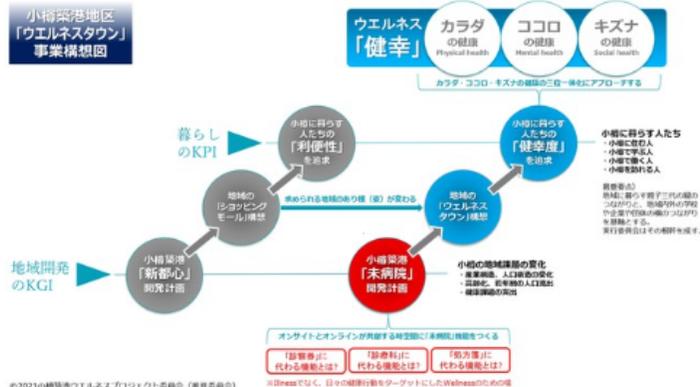
株式会社北海道二十一世紀総合研究所

🕒 2021年12月2日 22時07分



道内最大の複合商業施設「ウィングベイ小樽」を運営する株式会社小樽ベイシティ開発（小樽市長、橋本茂樹 代表取締役社長）と済生会小樽病院等を経営する北海道済生会（小樽市長、近藤真章 支部長）を中心に、地域の企業、大学が参画し、地域の行政、各種団体と連携する小樽築港ウエルネスプロジェクト委員会\*は、「小樽築港地区ウエルネスタウン事業構想」\*の実現に向けて、実行委員会メンバーを広く募集する。

本事業構想の核を成すのは、街につくる「未病院」である。「illness（病気）」を治療する病院とは異なり、日々の健康行動をターゲットに、小樽に暮らす人たちの「wellness（健幸）」の場となる「未病院」の機能を小樽築港エリアにつくる。いわゆる「ハコモノ」事業に留まらず、オンサイトとオンラインが共創する時空間に「未病院」機能をつくり、小樽に暮らす人（小樽に住む人、小樽で学ぶ人、小樽で働く人、小樽を訪れる人）のウエルネス（健幸＝カラダの健康、ココロの健康、キズナの健康の三位一体化）にアプローチする。



©2021小樽築港ウエルネスプロジェクト委員会（編集委員会）

未病院構想のイメージ図

小樽市は、道内を代表する商業都市、観光都市として成長してきたが、産業構造や人口構造の変化が進み、急速な高齢化、若年層の人口流出や札幌市への住民の転出等、地域振興の基盤が脆弱化してきている。また、地域における健康課題の解決も優先順位が高い（特定保健指導実施率10%台、要介護認定率25%前後）。

プロジェクトチームを率いる橋本茂樹氏は、「地域ヘルスケアを担う病院やスポーツ施設、介護施設をはじめ、さまざまな関係者らと共創しながら、『小樽「健幸」物語』をつくっていきたく」と語っている。

「未病院」構想をもとに、2022年3月には、地域に暮らす親子三世代の継のつながりと、地域内外の学校（大学や看護学校・専門学校・高校など）や企業や団体の横のつながりの二本を柱とした事業計画を策定する。

- \* 2020年7月に株式会社小樽ベイシティ開発と北海道済生会小樽病院は、ウエルネスタウン構築に関する協定書を締結し、本構想を策定。
- \* 「小樽築港ウエルネスプロジェクト委員会」は、事業を設計して推進する推進委員会と、事業を企画して実行する実行委員会から成る。

### ■推進委員会の主たるメンバー（2021年11月末時点）

- ・(株)小樽ベイシティ開発 代表取締役社長 橋本茂樹
- ・北海道済生会 常務理事 榎引久丸
- ・(株)ソプラテコ 代表取締役 大場隆志
- ・(株)さくらコミュニティサービス 代表取締役 中元秀昭
- ・小樽商科大学ビジネススクール 准教授 藤原健佑
- ・北海道教育大学岩見沢校 准教授 鈴木哲平
- ・経済産業省北海道経済産業局地域経済部 健康・サービス産業課
- ・(株)北海道二十一世紀総合研究所調査研究部 次長 河原岳郎
- ・(株)ヘルスケア・ビジネスナレッジ 代表取締役社長 西根英一（事業構想大学院大学特任教授）
- ・小樽市（オブザーバー）

### ■実行委員会のメンバーを広く募集する。

※企業や団体だけでなく、自治会や子供会、老人会、地元の高校に通う高校生チーム等もその対象となる。想定されるメンバーは以下の通り。

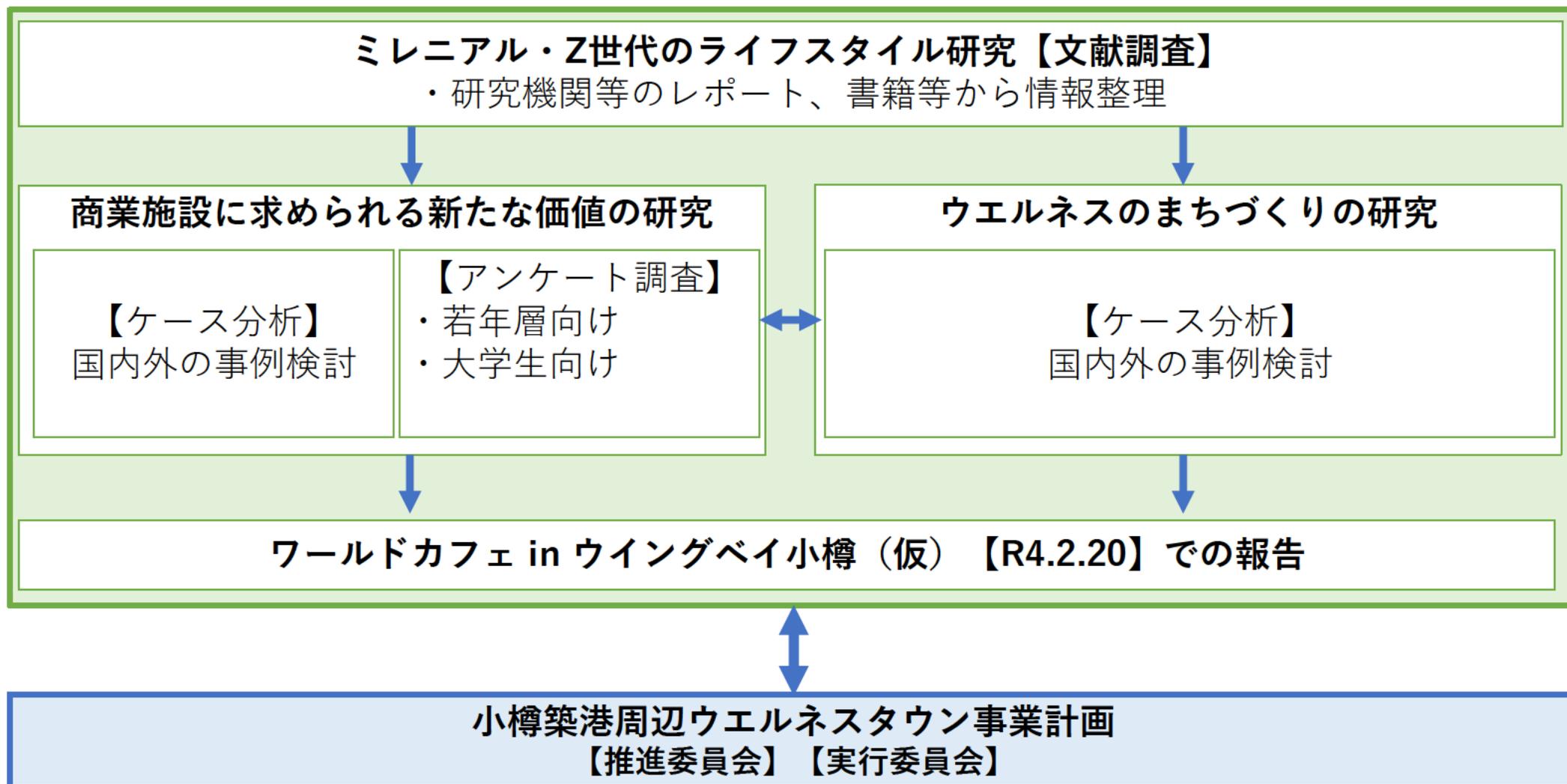
- ・ウエルネス（健幸）の観点で新たな事業を創出したい、あるいは取組みをサポートしたい小樽市内の企業や団体
- ・資源やノウハウを提供し、市内企業と共創して新たなウエルネス（健幸）関連の事業を創出したい、あるいは「ふるさと納税」のような資金サポートをすることで取組みに貢献したい市外の企業や団体
- ・次世代型まちづくりに向けて、「小樽築港の活性化」の観点から活動できる個人や団体
- ・顧客目線や住民目線でさまざまなアイデアやいろいろな取組みを推進する個人や団体
- ・企業や団体の活動に、インターンとして参画したい大学生や高校生
- ・大学によるリサーチやワークショップに協力したい大学生や高校生
- ・小樽に暮らす人たちのウエルネス（健幸）に貢献するアイデアを実現したい自治会や子供会、老人クラブ、地元の高校に通う高校生チーム 等

※実行委員会に参加したい方や本プロジェクトにご関心のある方は、以下より登録ください。詳細情報をお送りします。

<https://forms.gle/9skoyic4dPosDbZ8>

# ウイングベイ小樽の新たな存在価値創造の検討に向けた調査

小樽商科大学大津ゼミ、猪口ゼミと連携し、今後の消費の中心となる世代のライフスタイルを踏まえて、  
①これからの商業施設に求められる新たな価値、②ウェルネス（wellness：健やかで幸せな生活）のまちづくりに関する情報を整理し、小樽築港エリアにおけるウェルネス事業計画策定の参考とする。



# (2月20日開催) Well-B Meetsについて

実行委員メンバーを中心とした学生や企業・団体、個人が一堂に会し、ウェルネス事業のアイデアを創出するイベントを開催。(2022年2月20日(日))



## 2022.2.20(日)

会場 **ヲタル座** 小樽市築港 11-5 ウイングベイ小樽 5番街3階 JR小樽築港駅直結  
※オンライン同時開催

13:00 ~ 17:00

参加無料 ※会場参加定員: 30名 オンライン参加定員: 200名



- 13:00-13:05 **趣旨説明**  
小樽商科大学ビジネススクール准教授 藤原健祐
- 13:05-13:10 **開会挨拶**  
小樽市長 迫俊哉 氏
- 13:10-13:40 **第1部 トークセッション1**  
「若者のウェルビーイングと求められるまちの機能」  
小樽商科大学ビジネススクール准教授 藤原健祐  
北海道教育大学旭川校 芸術・スポーツビジネス専攻准教授 鈴木哲平  
小樽商科大学3年/合同会社 PoRtaru 代表社員 歌原大吾  
北海道教育大学旭川校 芸術・スポーツビジネス専攻3年 加藤るか
- 13:40-14:25 **第2部 ケースプレゼンテーション**  
「商業施設に求められる新たな価値の研究」小樽商科大学 猪口ゼミ  
「ウェルネスのまちづくりの研究」小樽商科大学 大津ゼミ
- 14:40-15:00 **第3部 トーク**  
「未病院」  
株式会社ヘルスケア・ビジネスナレッジ 代表取締役社長/  
事業構想大学院大学 特任教授  
西根英一 氏
- 15:00-15:30 **第4部 トークセッション2**  
「ウルネスタウン構想」  
株式会社小樽ベイシティ開発 代表取締役社長 橋本茂樹 氏  
社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道 常務理事 柳引久丸 氏  
株式会社北海道二十一世紀総合研究所 調査研究部長 河原岳郎 氏

- 15:30-16:50 **第5部 ワールドカフェ**  
「子育て世代と考える“安心して育てられるまち”」  
わくわく共育ネットワーク (小樽市教育委員会)  
司会 わくわく共育ネットワーク 副部会長 (小樽商科大学職員)  
高山慎太郎
- 16:50-16:55 **閉会挨拶**  
小樽市 こども未来部部長 小野寺正裕 氏

### <新型コロナウイルス感染予防対策について>

- ・Zoomによるオンライン配信、及び会場参加のハイブリッド開催といたします。
- ・会場では3密を回避し、衛生管理を徹底して開催いたします。
- ・会場参加の方は、マスク着用、手洗い、消毒等のご協力をお願いいたします。
- ・状況により、全面オンライン開催、及び開催内容に変更がある場合がございます。

最新情報、お申し込みは以下サイトをご確認ください。  
[https://www.otaru-uc.ac.jp/cgs\\_news/207966/](https://www.otaru-uc.ac.jp/cgs_news/207966/)



### お問い合わせ先

小樽商科大学グローバル戦略推進センター産学官連携推進部門  
Tel : 0134-27-5499 Fax : 0134-27-5293  
E-mail : cbc-iryuu@office.otaru-uc.ac.jp

主催：国立大学法人小樽商科大学 共催：COI-NEXT、小樽市、株式会社北海道二十一世紀総合研究所